

5章 セットアップ



5. セットアップ

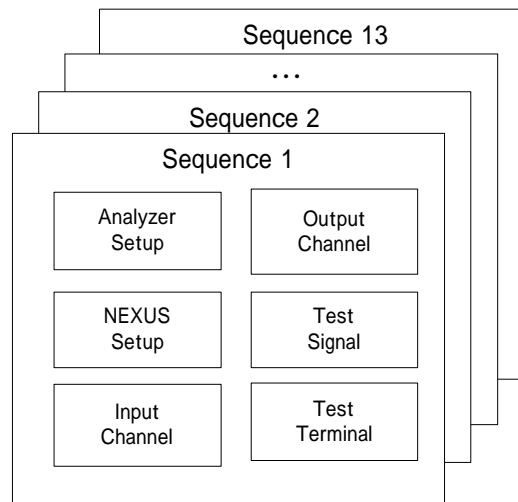
本章では、各シーケンスごとの分析方法の設定に関する操作方法についての詳細を記します。

分析方法の設定は、下表のリスト形式で表示される設定画面で行うことができます。

No.	リスト名	機能
1	Sequence Selection	3GPP TS 26.131、TS 26.132 V5.0.0の内容に沿った13種のテスト項目を選択するための選択リストを表示します。
2	Analyzer Setup	各テスト項目ごとの測定器の基本的なセットアップ (分析フィルタ、アベレージング回数など)を行うためのリストを表示します。
3	NEXUS Setup	マイクロフォンの感度設定や電源供給、ケーブル長を設定するためのリストを表示します。測定に使用するマイクロフォンはコンディショニングアンプNEXUSに接続されることが前提条件です。
4	Input Channel	測定器の入力チャンネルに関するセットアップ (入力チャンネル、測定系の出力点、重み付けなど)の設定を行うためのリストを表示します。
5	Output Channel	測定器の出力チャンネルに関するセットアップ (出力チャンネル、測定系の入力点、出力レベルなど)の設定を行うためのリストを表示します。
6	Test Signal	測定器から出力する試験信号の種類を選択するためのリストを表示します。
7	Test Terminal	試験端末に関するセットアップ (シリアル番号、タイプ、Wide/Narrowなど)の設定を行うためのリストを表示します。

セットアップを行う表示画面

上表の<Analyzer Setup>リスト以下 (2~7)の表示画面は、<Sequence Selection>リストで選択されている試験項目ごとの設定内容を保持するようになっています。<Sequence Selection>リストのアクティブリストを変更すると、該当するシーケンスの<Analyzer Setup>リスト以下のセットアップ内容がアクティブになります。



シーケンスと各種設定リストの構成イメージ

以下に、分析方法の設定を行う各画面表示の内容について記します。



解説

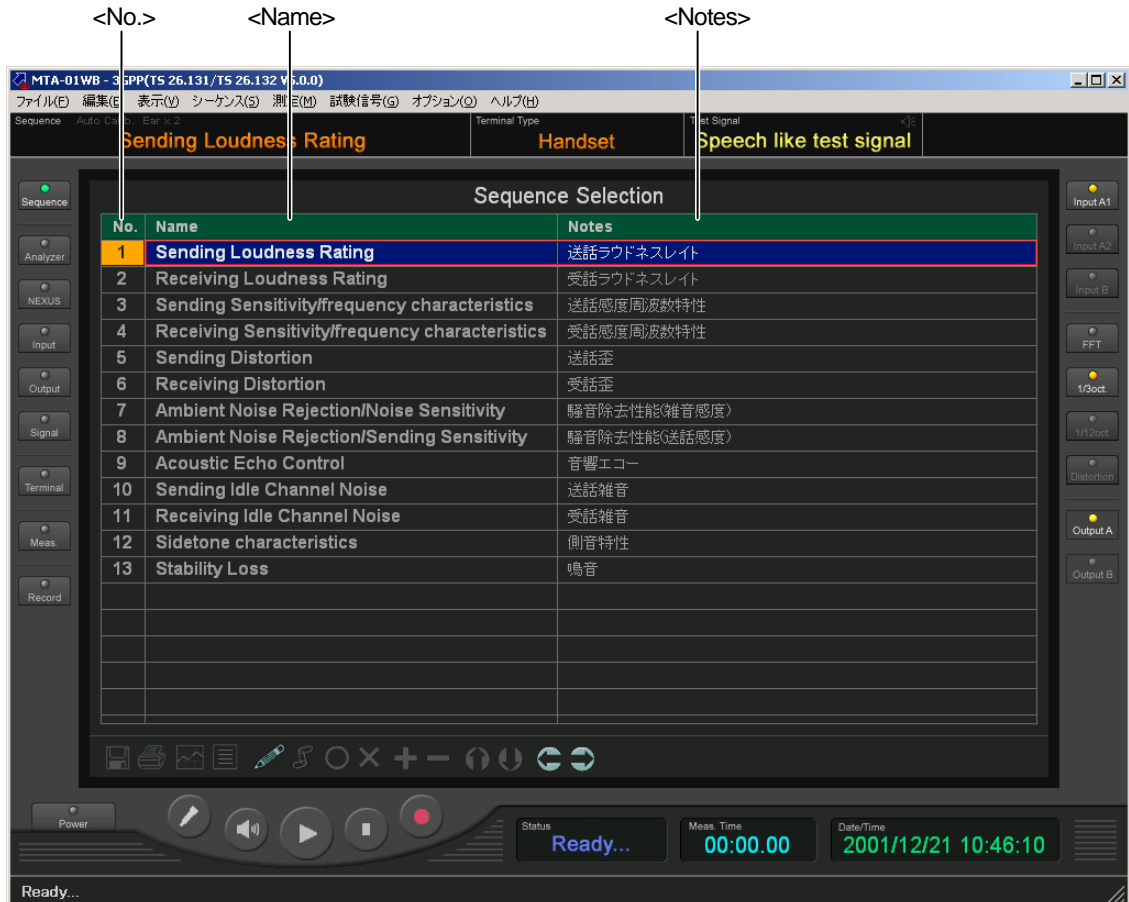
セットアップ画面は全てリスト形式で表示されます。リスト形式の共通操作については、4.10 「リストの共通操作」を参照してください。

5.1 Sequence Selection

<Sequence Selection>リストは測定する試験項目を選択するための一覧リストで、<Notes>に設定されている文字列以外のリスト編集は行えません。

5.1.1 各部の名称と機能

<Sequence Selection>リストの各部の名称と機能の概要は以下のようになっています。



Sequence Selectionの表示例

以下に各部の機能の概要について記します。

- <No.>
リストの行番号を連番で表示します。
- <Name>
3GPP TS 26.131、TS26.132 V.5.0.0で規定されている13種の試験項目名称を表示します。<Sequence Selection>リストでは<Name>を編集・変更することはできません。
- <Notes>
各試験項目リストに対してメモなどを設定するための項目です。インストレーション状態では、各試験項目の日本語訳がデフォルト設定されています。入力できる最大文字数は半角80文字になっています。

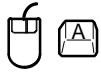


解説


<Sequence Selection>リストと<Analyzer Setup>リストのアクティブ化は連動しています。

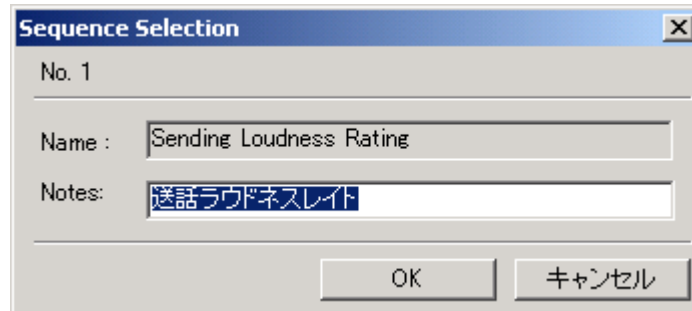
5.1.2 編集操作

<Sequence Selection>リストの編集は、次の操作で行います。

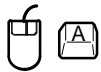


編集するリストを選択しEnter  キーを押下します。

Enter  キーを押下すると、下図のような<Sequence Selection>編集ダイアログボックスが表示されます。



<Sequence Selection>編集ダイアログボックス



編集した内容で更新する場合は<OK>ボタンをクリックします。取り消す場合は<キャンセル>ボタンをクリックします。

5.2 Analyzer Setup

<Analyzer Setup>リストは、測定器に対してバンドパスフィルタ、アベレーシング回数などの設定を行うためのセットアップリストです。<Analyzer Setup>リストは<Sequence Selection>リストと(アクティブ状態が)連動しており、<Analyzer Setup>リストと<Sequence Selection>リストのアクティブリストは常に一致した状態になります。

5.2.1 各部の名称と機能

<Sequence Selection>リストの各部の名称と機能の概要は以下のようになっています。

<No.>	<Name>	<B.P.F.>	<Averages>	<Notes>
1	送話ラウドネスレイト	1/3oct.	15	Headsetの測定方法は検討中
2	受話ラウドネスレイト	1/3oct.	15	Headsetの測定方法は検討中
3	送話感度周波数特性	1/12oct.	10	
4	受話感度周波数特性	1/12oct.	20	
5	送話歪	1/3oct.	5	
6	受話歪	1/3oct.	5	
7	騒音除去性能(雑音感度)	1/3oct.	15	Desk-top Hands-free, Handheld Hands-freeは検討中
8	騒音除去性能(送話感度)	1/3oct.	15	Desk-top Hands-free, Handheld Hands-freeは検討中
9	音響エコー	1/3oct.	15	
10	送話雑音	1/3oct.	15	Desk-top Hands-free, Handheld Hands-freeは検討中
11	受話雑音	1/3oct.	15	Desk-top Hands-free, Handheld Hands-freeは検討中
12	側音特性	unused	15	本試験項目は、Hands-free端末には要求しない
13	鳴音	1/12oct.	15	本試験項目は、Hands-free端末には要求しない

Analyzer Setupの表示例

以下に各部の機能の概要について記します。

<No.>

リストの行番号を連番で表示します。

<Name>

<Sequence Selection>リストで表示される各試験項目に該当する名称を入力するための項目です。インストーション状態では、<Sequence Selection>リストの<Notes>の内容と同様に各試験項目の日本語訳がデフォルト設定されています。後述するように、<Analyzer Setup>リストの<Name>はシーケンス名として扱われ、測定データの記録時、ここで設定された<Name>を試験項目名として<Measurement Record>リストに記録されます。入力できる最大文字数は半角80文字になっています。



解説

<Sequence Selection>リストと<Analyzer Setup>リストのアクティブ化は連動しています。

□ <B.P.F.>

測定器が使用するバンドパスフィルタを1/3oct.、1/12oct.バンド分析のどちらかを選択します。同時に1/3oct.、1/12oct.バンド分析を行うことはできません。

設定	内容
<unused>	バンドパスフィルタを未使用に設定します。
<1/3oct>	1/3オクターブバンドパスフィルタに設定します。
<1/12oct>	1/12オクターブバンドパスフィルタに設定します。

<B.P.F.>の設定内容

□ <Averages>

測定データのアベレージング回数を指定します。設定できるアベレージングか回数は1～100の範囲です。測定開始後、ここで設定された回数だけアベレージングが行われると自動的に測定が終了します。

□ <Notes>

各リストに対してメモなどを設定するための項目です。インストラクション状態では、各試験項目の3GPP規格の補足事項が設定されています。入力できる最大文字数は半角80文字になっています。



解説

アベレージング回数に関して、測定器は1回分の測定データとして0.5s分のデータを取り込んでいます。アベレージング回数が10回に指定された場合、これは5s間のアベレージングが行われたことになります。

5.2.2 編集操作

<Analyzer Setup>リストの編集は、次の操作で行います。



編集するリストを選択しEnter (Enter ↵) キーを押下します。

Enter (Enter ↵) キーを押下すると、下図のような<Analyzer Setup>編集ダイアログボックスが表示されます。

<Analyzer Setup>編集ダイアログボックス



編集した内容で更新する場合は<OK>ボタンをクリックします。取り消す場合は<キャンセル>ボタンをクリックします。

5.3 NEXUS Setup

<NEXUS Setup> リストは、NEXUSの入力チャンネルに接続するマイクロフォンの設定を行うセットアップリストです。<NEXUS Setup> リストの設定内容は、測定開始時に測定器に繋がれたRS232-Cケーブルを通してNEXUSを自動設定するためのものです。

5.3.1 各部の名称と機能

<NEXUS Setup> リストの各部の名称と機能の概要は以下のようになっています。

The screenshot shows the NEXUS Setup window with a table of microphone configurations. The table has the following columns: No., Name, Ch., Sensitivity [mV/Pa], Power Supply, Cable Length [m], and Notes. The data in the table is as follows:

No.	Name	Ch.	Sensitivity [mV/Pa]	Power Supply	Cable Length [m]	Notes
1	マイクキャリブレーション用	1	13.00	Auto	1	マイクキャリブレーション用
2	Type 4939	1	4.02	Auto	1	from MRP
3	Type 4159C	1	11.70	Auto	1	from ERP(L)
4	Type 4195C	2	11.70	Auto	1	from ERP(R)
5	Type 4191	1	13.03	Auto	1	

Labels above the table indicate the column headers: <No.>, <Name>, <Ch.>, <Sensitivity>, <Power Supply>, <Cable Length>, and <Notes>. The interface also shows a status bar at the bottom with 'Ready...', 'Meas. Time 00:00.00', and 'Date/Time 2001/12/21 10:47:43'.

NEXUS Setupの表示例

以下に各部の機能の概要について記します。

- <No.>
リストの行番号を連番で表示します。
- <Name>
NEXUSに接続されるマイクロフォンの名称を表示します。入力できる最大文字数は半角80文字になっています。
- <Ch.>
マイクロフォンを接続するNEXUSの入力チャンネルを表示します。設定できる入力チャンネルはCh.1かCh.2です。

設定	内容
<Input 1>	対象のマイクマイクがInput1の場合に選択します。
<Input 2>	対象のマイクマイクがInput2の場合に選択します。

<Ch.>の設定内容

<Sensitivity>

NEXUSに接続されるマイクロフォンの感度設定値を表示します。入力するマイク感度の値の単位は[mV/Pa]です。

 <Power Supply>

NEXUSがマイクロフォンに供給する電圧を表示します。電源供給の値は、4mV、10mV、14V、40V、AUTOの中から選択可能で、通常AUTOを選択します。

設定	内容
4mV	マイクロフォンへ40mVの電源供給を行います。
10mV	マイクロフォンへ10mVの電源供給を行います。
14V	マイクロフォンへ14Vの電源供給を行います。
40V	マイクロフォンへ40Vの電源供給を行います。
AUTO	マイクロフォンへAUTO(自動)で電源供給を行います。

<Power Supply>の設定内容

 <Cable Length>

NEXUSに接続するマイクロフォンのケーブル長を表示します。マイクケーブル長の設定は1m～1000mの範囲です。

 <Notes>

各リストに対してメモなどを設定するための項目です。インストレーション状態では、マイクロフォンが受け取る信号がMRPそれともERP(L)、ERP(R)からのものか分かるような設定内容になっています。入力できる最大文字数は半角80文字になっています。



解説


マイクロフォンの電源供給はAUTOで設定するようにしてください。

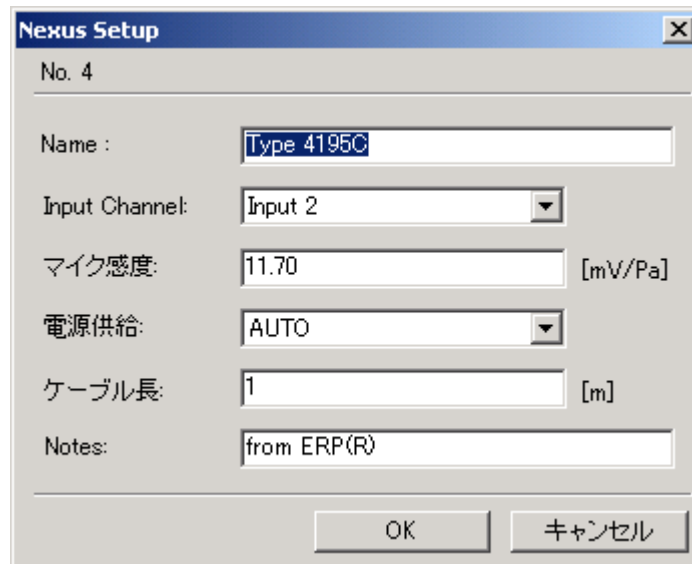
5.3.2 編集操作

<Nexus Setup>リストの編集は、次の操作で行います。



編集するリストを選択しEnter  キーを押下します。

Enter  キーを押下すると、下図のような<Nexus Setup>編集ダイアログボックスが表示されます。



<NEXUS Setup>編集ダイアログボックス



編集した内容で更新する場合は<OK>ボタンをクリックします。取り消す場合は<キャンセル>ボタンをクリックします。

5.4 Input Channel

測定器の入力チャンネルに関するセットアップ (入力チャンネル、測定系の出力点、重み付けなどの) 設定を行うためのリストを表示します。

5.4.1 各部の名称と機能

<Input Channel>リストの各部の名称と機能の概要は以下のようになっています。

No.	Name	Ch.	Test Point	Weighting1	Weighting2	Notes
1	マイクキャリブレーション	A1	from MRP	FLAT	FLAT	マイクキャリブレーション用の設定
2	送話感度、伝送特性	A1	from MRP	FLAT	FLAT	試験信号レベルの調整用
3	送話感度、伝送特性	B	from POI(SS-out)	FLAT	FLAT	測定系の出力点
4	受話感度、伝送特性 (1)	A1	from ERP(R)	FLAT	FLAT	測定系の出力点
5	受話感度、伝送特性 (1)	B	from POI(SS-in)	FLAT	FLAT	試験信号レベルの調整用
6	受話感度、伝送特性 (2)	A1	from ERP(L)	FLAT	FLAT	測定系の出力点 (HATSの両耳使用)
7	受話感度、伝送特性 (2)	A2	from ERP(R)	FLAT	FLAT	測定系の出力点 (HATSの両耳使用)
8	送話歪	A1	from MRP	FLAT	FLAT	試験信号レベルの調整用
9	送話歪	B	from POI(SS-out)	FLAT	FLAT	測定系の出力点
10	受話歪 (1)	A1	from ERP(R)	FLAT	HATS人工耳特性	測定系の出力点
11	受話歪 (1)	B	from POI(SS-in)	FLAT	FLAT	試験信号レベルの調整用
12	受話歪 (2)	A1	from ERP(L)	FLAT	HATS人工耳特性	測定系の出力点 (HATSの両耳使用)
13	受話歪 (2)	A2	from ERP(R)	FLAT	HATS人工耳特性	測定系の出力点 (HATSの両耳使用)
14	受話歪 (2)	B	from POI(SS-in)	FLAT	FLAT	試験信号レベルの調整用 (HATSの)
15	騒音除去性能(雑音感度)	A1	from MRP	A特性	FLAT	試験信号レベルの調整用
16	騒音除去性能(雑音感度)	B	from POI(SS-out)	FLAT	FLAT	測定系の出力点
17	騒音除去性能(送話感度)	A1	from MRP	FLAT	FLAT	試験信号レベルの調整用
18	音響エコー	A1	from POI(SS-in)	A特性	FLAT	試験信号レベルの調整用

Input Channelの表示例

以下に各部の機能の概要について記します。

<No.>

<No.>は、リストの行番号を連番で表示します。

<Name>

該当する入力チャンネルがどのシーケンスに対応した設定かを表示します。入力できる最大文字数は半角80文字になっています。

<Ch.>

設定する測定器の入力チャンネルをCh.A1、Ch.A2、Ch.Bの中から1つ選択します。測定器は最大2Ch.同時入力が可能ですが、「A1とA2」もしくは「A1とB」のどちらかの組み合わせが可能です。

設定	内容
<Input A1>	対象の入力をInput A1に設定する場合に選択します。
<Input A2>	対象の入力をInput A2に設定する場合に選択します。
<Input B>	対象の入力をInput Bに設定する場合に選択します。

<Ch.>の設定内容

□ <Test Point>

測定器に入力される信号が測定システムの接続系におけるどの出力点からのものかを表示します。測定時に処理される計算値および試験信号レベル調整時の入出力チャンネルは、測定器入出力チャンネルの<Test Point>の設定内容から自動的に行うようになっていますので必ず正しく設定する必要があります。

設定	内容
<from POI(SS-in)>	対象の入力がPOI(SS-in)のリターン信号の場合に選択します。
<from POI(SS-out)>	対象の入力がPOI(SS-out)の場合に選択します。
<from MRP>	対象の入力がMRP(NEXUS Output)の場合に選択します。
<from ERP(L)>	対象の入力がERP(L)(NEXUS Output)の場合に選択します。
<from ERP(R)>	対象の入力がERP(R)(NEXUS Output)の場合に選択します。

<Test Point>の設定内容

□ <Weighting1>、<Weighting2>

測定器に入力された信号レベルに掛ける重み付けをFLAT(平坦特性)、A-Weighting、ソホメータ特性(雑音特性)、HATS特性(外耳道補正特性)から選択することができます。重み付けは、1つの入力に対して最大2つの重み付けを行うことができます。

設定	内容
<FLAT>	対象入力に周波数の重み付けを行わない場合に選択します。
<A特性>	対象入力にA特性をかける場合に選択します。
<ソホメータ特性>	対象入力にソホメータ特性をかける場合に選択します。
<HATS人工耳特性>	対象入力にHATS人工耳特性をかける場合に選択します。

<Weighting1>、<Weighting2>の設定内容

□ <Notes>

各リストに対してメモなどを設定するための項目です。インストレーション状態では、各入力チャンネルがどのような目的で使用されるかが設定されています。入力できる最大文字数は半角80文字になっています。



解説

<Test Point>は、測定時に処理される規格計算値および試験信号レベル調整時の入出力チャンネルを自動的に行うために必要な設定です。



解説


HATS人工耳特性はHATSの頭による音の回折効果と外耳道の音響特性の補正を行います。HATS使用したハンズフリー端末測定時は「HATS人工耳特性」を選択して測定してください。

5.4.2 編集操作

<Input Channel>リストの編集は、次の操作で行います。



編集するリストを選択しEnter  キーを押下します。

Enter  キーを押下すると、下図のような<Input Channel>編集ダイアログボックスが表示されます。



<Input Channel>編集ダイアログボックス



編集した内容で更新する場合は<OK>ボタンをクリックします。取り消す場合は<キャンセル>ボタンをクリックします。



解説

周波数重み付けは同時に2つ処理することが可能です。

5.4.3 両耳測定の設定

受話系の試験項目 (受話ラウドネスレイト 受話感度周波数特性、受話歪 測定)においてHATSの両耳マイクロフォンから入力を与える測定を行う場合、<Input Channel>リストで両耳測定の設定を行う必要があります。両耳測定を行うには<Input Channel>リストの<Test Point>が「from ERP(L)」と「from ERP(R)」の2つのリストをグループ化することで可能となります。

両耳測定の設定は、次の操作で行います。



<Test Point>が「from ERP(L)」と「from ERP(R)」の2つのリストをグループ化します。

グループ化の操作については 4.10.4 グループ化」を参照してください。



試験信号出力のリターンを受け取る入力チャンネルをアクティブリストに設定します。

両耳測定の設定が正しく行われると、モーターの<Sequence>欄の両耳測定インジケータ「Ear x 2」が点灯します。



解説

<Input Channel>リストでのグループ化は、<Test Point>が「from ERP(L)」と「from ERP(R)」の2つをグループ化したときのみ有効です。その他のグループ化は測定に何の影響も与えません (設定は無視されます)。



解説

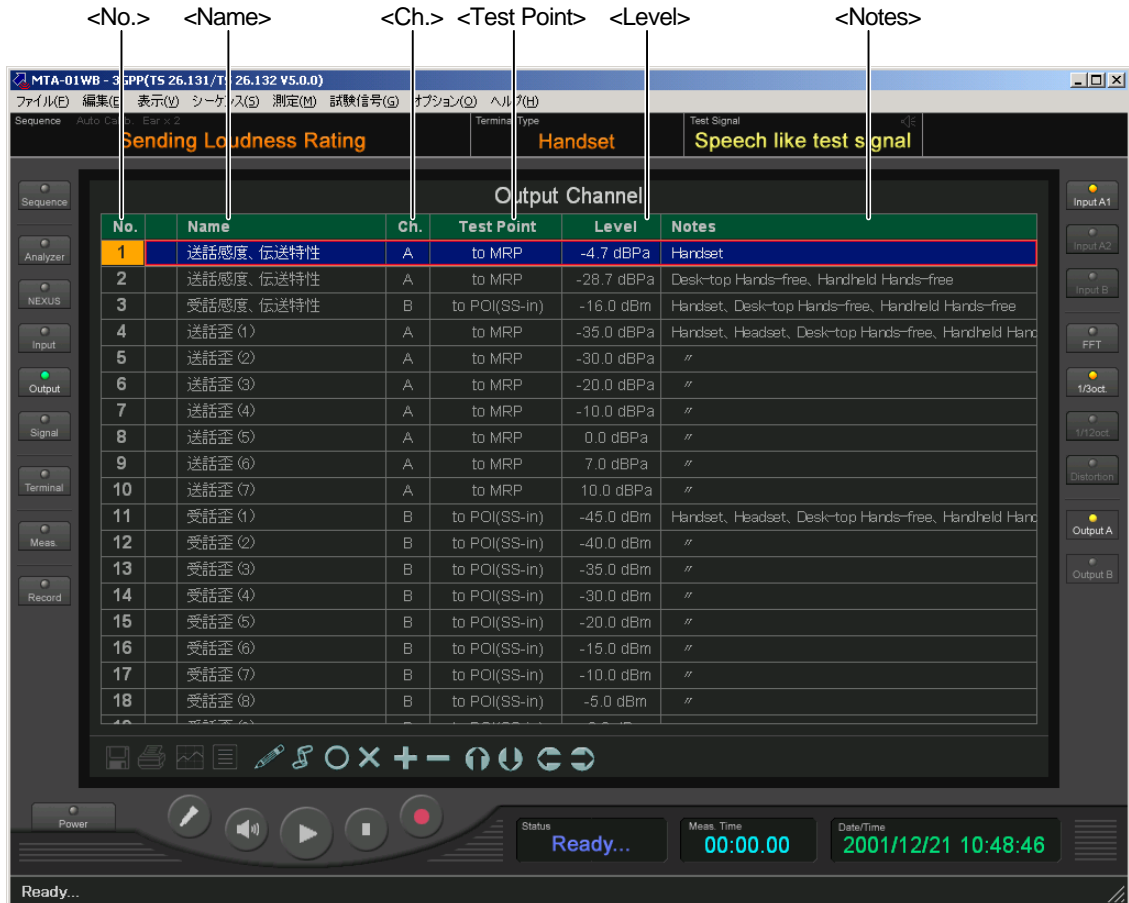
リストのグループ化操作については 4.10.4 グループ化」を参照してください。

5.5 Output Channel

測定器の出力チャンネルに関するセットアップ (出力チャンネル、測定系の入力点、出力レベルなどの 設定を行うためのリスト)を表示します。

5.5.1 各部の名称と機能

<Output Channel>リストの各部の名称と機能の概要は以下のようになっています。



Output Channelの表示例

以下に各部の機能の概要について記します。

- <No.>
<No.>は、リストの行番号を連番で表示します。
- <Name>
該当する出力チャンネルがどのシーケンスに対応した設定かを表示します。入力できる最大文字数は半角80文字になっています。
- <Ch.>
設定する測定器の出力チャンネルをCh.A、Ch.Bの中から1つ選択します。測定器はCh.AもしくはCh.B1どちらか一方からのみ出力することが可能です。

設定	内容
<Output A>	対象の出力をOutput Aに設定する場合に選択します。
<Output B>	対象の出力をOutput Bに設定する場合に選択します。

<Ch.>の設定内容

□ <Test Point>

該当する出力チャンネルから出力される信号が測定システムの接続系におけるどの入力点に供給されるかを表示します。測定時に処理される計算値および試験信号レベル調整時の入出力チャンネルは、測定器入出力チャンネルの<Test Point>の設定内容から自動的に行うようになっていますので必ず正しく設定する必要があります。

設定	内容
<to POI(SS-in)>	対象の出力がPOI(SS-in)の場合に選択します。
<to MRP>	対象の出力がMRP(Power AMP Input)の場合に選択します。

<Test Point>の設定内容

□ <Level>

該当する出力チャンネルから出力する信号レベルを表示します。出力レベルは下表の単位で指定することができます。

設定	内容
<dBPa >	対象の出力をdBpaでレベル設定する場合に選択します。
<dBm >	対象の出力をdBmでレベル設定する場合に選択します。
<dBV >	対象の出力をdBVでレベル設定する場合に選択します。

<Level>の設定内容

□ <Notes>

各リストに対してメモなどを設定するための項目です。インストレーション状態では、各試験項目の3GPP規格の補足事項として、出力レベルの値が試験端末のどのタイプのものかが設定されています。入力できる最大文字数は半角80文字になっています。



解説

<Test Point>は、測定時に処理される規格計算値および試験信号レベル調整時の入出力チャンネルを自動的に行うために必要な設定です。



解説


出力信号レベルの単位は、マイクキャリブレーション完了後のNEXUSの出力レンジ設定が1V/1Paの場合、1dBV=1dBPa、dBm値は(dBm - 2.218487)でdBVに換算されます。

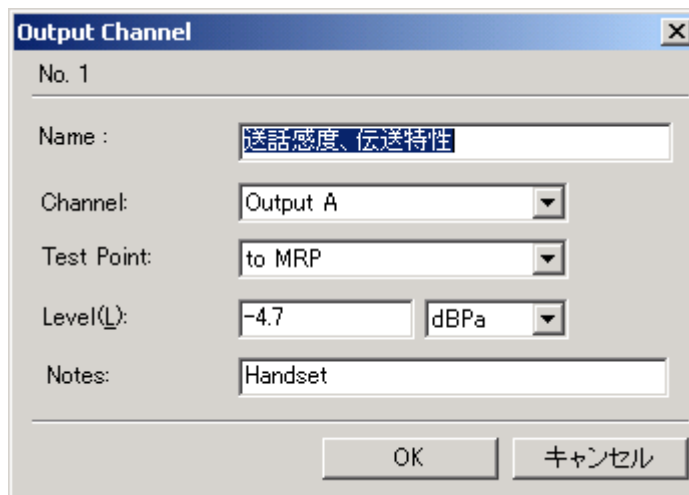
5.5.2 編集操作

<Output Channel>リストの編集は、次の操作で行います。



編集するリストを選択しEnter  キーを押下します。

Enter  キーを押下すると、下図のような<Output Channel>編集ダイアログボックスが表示されます。



<Output Channel>編集ダイアログボックス



編集した内容で更新する場合は<OK>ボタンをクリックします。取り消す場合は<キャンセル>ボタンをクリックします。



解説

出力信号レベルの単位は、MTA-01WBの内部では常にdBVに換算して処理するようになっています。

5.5.3 複数出力レベルの設定

「送話歪」, 「受話歪」の試験項目においては段階的に(複数の)決まったレベル値で試験信号を出力する必要があります。複数の出力レベルを設定するためには、<Output Channel>リストでグループ化の操作を行う必要があります。

複数出力レベルの設定は、次の操作で行います。



段階的に出力するレベル値をもったリストを全てグループ化します。

グループ化の操作については 4.10.4 グループ化」を参照してください。グループ化した<Output Channel>リストは、測定時にレベル値の低い方から順に処理されます。



解説

<Output Channel>リストでのグループ化は、「送話歪」, 「受話歪」のシーケンスでのみ有効です。その他のシーケンスでのグループ化は測定に何の影響も与えません(設定は無視されます)。



解説

リストのグループ化操作については 4.10.4 グループ化」を参照してください。

5.6 Test Signal

測定器から出力する試験信号の種別を選択するためのリストを表示します。

5.6.1 各部の名称と機能

<Test Signal>リストの各部の名称と機能の概要は以下のようになっています。

No.	Name	Frequency [Hz]	Notes
1	Speech like test signal	---	会話類似信号 (Pink Noise 250ms-ON, 150ms-OFF)
2	Pink Random Noise	---	ピンクノイズ
3	White Random Noise	---	ホワイトノイズ
4	Pseudo Random Noise	---	擬似雑音
5	Multi Sine Wave	---	マルチサイン波 (250Hz~2.5kHz, 1/3oct.間隔)
6	Sine Wave	1025	サイン波

Test Signalの表示例

以下に各部の機能の概要について記します。


- <No.>
 - <No.>は、リストの行番号を連番で表示します。
- <Name>
 - 試験信号名を表示します。
- <Frequency>
 - Sine Wave(正弦波)の周波数を設定します。Sine Wave以外の試験信号は周波数の設定を行うことはできません。
- <Notes>
 - 各リストに対してメモなどを設定するための項目です。インストレーション状態では、各試験信号名称の日本語訳と試験信号の簡単な説明が設定されています。入力できる最大文字数は半角80文字になっています。


5.6.2 編集操作

<Test Signal>リストの編集は、次の操作で行います。



編集するリストを選択しEnter  キーを押下します。

Enter  キーを押下すると、下図のような<Test Signal>編集ダイアログボックスが表示されます。



<Test Signal>編集ダイアログボックス



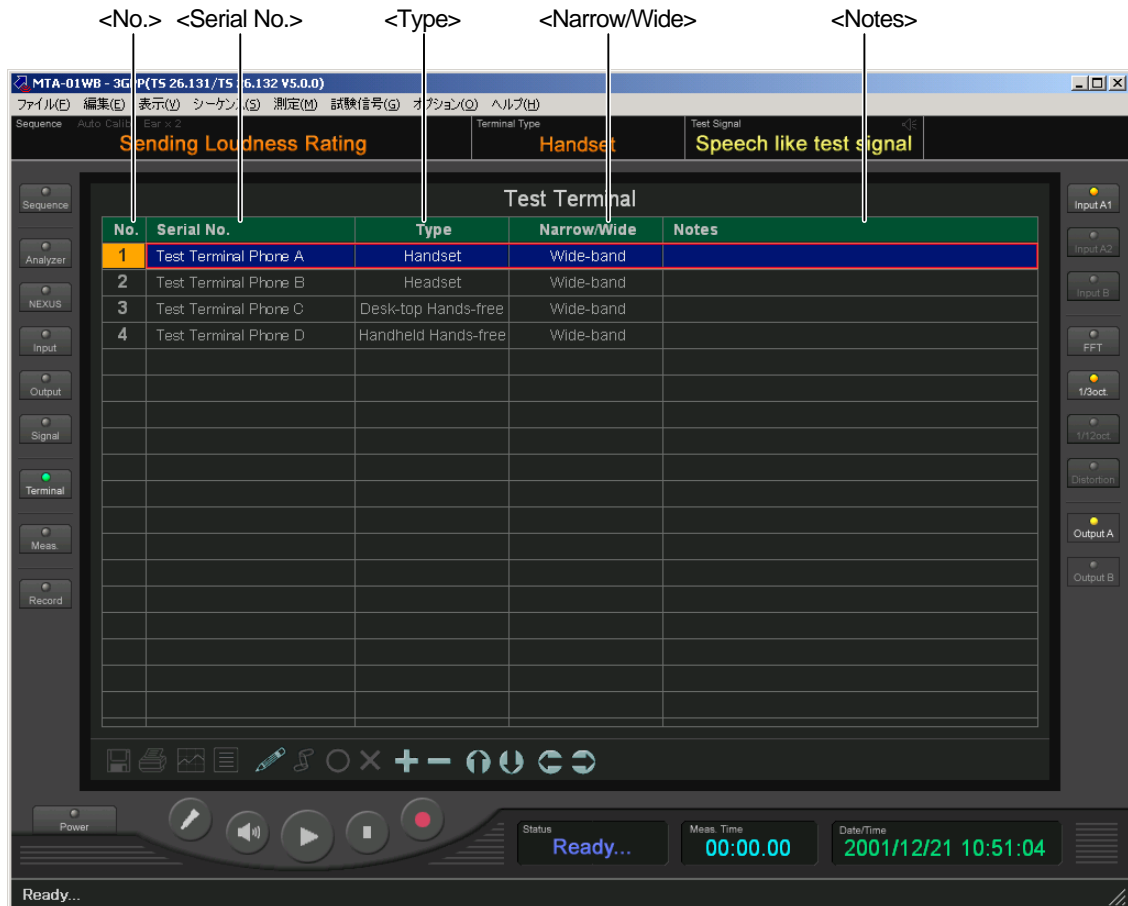
編集した内容で更新する場合は<OK>ボタンをクリックします。取り消す場合は<キャンセル>ボタンをクリックします。

5.7 Test Terminal

試験端末に関するセットアップ (シリアル番号、タイプ、Wide/Narrowなどの 設定を行うための) リストを表示します。

5.7.1 各部の名称と機能

<Test Terminal>リストの各部の名称と機能の概要は以下のようになっています。



Test Terminalの表示例

以下に各部の機能の概要について記します。

<No.>

<No.>は、リストの行番号を連番で表示します。

<Serial No.>

測定する試験端末のシリアル番号を表示します。入力できる最大文字数は半角80文字になっています。

□ <Type>

測定する試験端末のタイプを表示します。試験端末のタイプは、Handset、Headset、Desk-top Hands-free、Handheld Hands-freeの4つのタイプから選択します。ここで設定された試験端末タイプと後述する<Narrow/Wide>の設定の組み合わせから、送話・受話周波数特性のシーケンス選択時に表示されるマスクカーブ（トランスカーブ）が決定されます。

設定	内容
<Handset>	対象の端末がHandsetの場合に選択します。
<Headset	対象の端末がHeadsetの場合に選択します。
<Desktop Hands-free>	対象の端末がDesktop Hands-freeの場合に選択します。
<Handheld Hands free>	対象の端末がHandheld Hands-freeの場合に選択します。

<Type>の設定内容

□ <Narrow/Wide>

測定する試験端末がNarrow-bandかWide-bandかを表示します。ここで設定された<Narrow/Wide>の内容と前述した<Type>の設定の組み合わせから、送話・受話周波数特性のシーケンス選択時に表示されるマスクカーブ（トランスカーブ）が決定されます。

設定	内容
<Narrow-band>	対象の端末がNarrow-Bandの場合に選択します。
<Wide-band>	対象の端末がWide-Bandの場合に選択します。

<Narrow/Wide>の設定内容

□ <Notes>

各リストに対してメモなどを設定するための項目です。インストレーション状態では、何も設定されています。入力できる最大文字数は半角80文字になっています。



解説


<Type>および<Narrow/Wide>は、送話・受話周波数特性のシーケンス選択時に表示されるマスクカーブ（トランスカーブ）を決定するために必要な設定です。

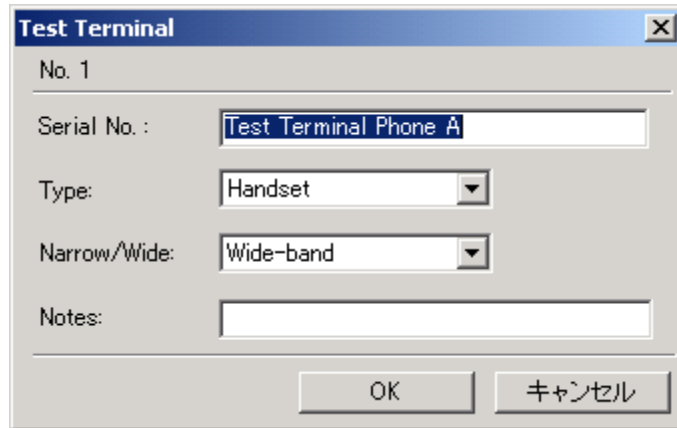
5.7.2 編集操作

<Test Terminal>リストの編集は、次の操作で行います。



編集するリストを選択しEnter  キーを押下します。

Enter  キーを押下すると、下図のような<Test Terminal>編集ダイアログボックスが表示されます。



<Test Terminal>編集ダイアログボックス



編集した内容で更新する場合は<OK>ボタンをクリックします。取り消す場合は<キャンセル>ボタンをクリックします。